



故 志 水 寛 先 生

The late Professor Yutaka Shimizu

(1926~2000)

志水 寛先生のご逝去を悼む

日本水産学会名誉会員，高知大学名誉教授志水 寛博士は2000年2月28日神戸市において逝去されました。享年73才でした。

先生は，1926年（大正15年）4月11日兵庫県にお生まれになり，昭和26年3月京都大学農学部水産学科を卒業し，同大学大学院特別研究生5年次修了後，京都大学助手（昭和31年），同助教授（昭和35年）を経て近畿大学農学部助教授（昭和37年），同教授（昭和40年）に就任されました。その後，昭和43年に高知大学農学部（栽培漁業学科）に教授として移られましたが，昭和60年には母校の京都大学農学部（水産学科）に教授として迎えられることとなり，平成2年3月停年退官されました。この間，昭和60年に高知大学から名誉教授の称号を受けておられます。

先生は水産化学，水産食品学などの分野において多くの業績をあげられましたが，なかでも魚類筋肉の原料学的特性に関する研究および魚肉ねり製品の弾力形成機構に関する研究が主要なもので，それらが関連する分野において先導的役割を果たされました。また，先生は幾多の有為な人材を育成されましたが，本学会においても理事，評議員，近畿支部長，各種委員を歴任され，本会の発展に貢献されました。これらのご業績によって昭和51年度日本水産学会加工技術賞，平成2年度日本水産学会功績賞を受けられ，そして平成9年には同学会の名誉会員に推挙されています。

以前から蒲鉾を通じてわが国の伝統食品に多大の関心を寄せておられ，昭和59年には同志とともに日本伝統食品研究会を旗揚げされました。ご退官後も神戸学院女子短期大学に特任教授として勤務されるかたわら，蒲鉾の製造技術の伝承のみならず，そのルーツについても並ならぬ関心を持たれ，幾度も海外に旅されました。これと平行してわが国のねり製品加工業の子弟育成を願って，平成5年には高知市に「浦戸蒲鉾塾」を開校され，多くの人材を世に送られました。

先生は若年より学を志し、おだやかで、職人はだの気質を持ちあわせておられました。しかし、こうした人にありがちなかたぐるしいころはなく、クラシック音楽や酒を愛し、多く後輩、弟子に慕われました。平成 11 年夏には自らの病と先行きを察知して、会した一同に別れの挨拶をすませ、永遠の旅に発たれたのであります。

ここに志水 寛先生の生前のご業績を称え、衷心より哀悼の意を表します。

(坂口守彦 京都大学教授)